

令和5年度 全国体力・運動能力、運動習慣等調査における

北九州市立 若松 中学校の結果分析と今後の取組について

スポーツ庁による「全国体力・運動能力、運動習慣等調査」について、令和5年6～7月に、2年生を対象として、「体力・運動能力」と「運動習慣等」についての調査を実施いたしました。（熱中症等の予防の観点から、20mシャトルランについては、5月中旬から6月上旬に実施しています。）

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

本結果は、学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にしていただきたいと思います。また、運動習慣については、学校のみでなく、家庭で運動を一緒に「する・みる・話す」ことが大切です。本校では、運動習慣の確立と授業の充実により、総合的に体力の向上を目指しています。ご家庭でも運動習慣の確立に向けた取組の充実をお願いします。

※ 本調査により測定できるのは、体力・運動能力の特定の一部分です。

1. 調査の目的

- (1) 国が全国的な子供の体力の状況を把握・分析することにより、子供の体力の向上にかかる施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 各教育委員会が自らの子供の体力の向上に係る施策の成果と課題を把握し、その改善を図るとともに、子供の体力の向上に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3) 各学校が各児童生徒の体力や運動習慣、生活習慣等を把握し、学校における体育・健康等に関する指導などの改善に役立てる。

2. 調査内容

(1) 実技に関する調査

〔8種目〕 握力、上体起こし、長座体前屈、反復横とび、持久走・20mシャトルラン、50m走、立ち幅とび、ハンドボール投げ
※持久走か20mシャトルランのどちらかを選択するため8種目となる

(2) 質問紙調査

運動習慣、生活習慣等に関する質問紙調査

3. 体力・運動能力に関する調査結果の概要

全国・本市・本校の実技調査の結果

<男子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	29.02	25.82	44.16	51.22	409.02	78.07	8.01	197.02	20.40	41.32
本市	29.72	26.24	46.29	51.95	413.28	80.12	7.86	201.52	20.51	43.46

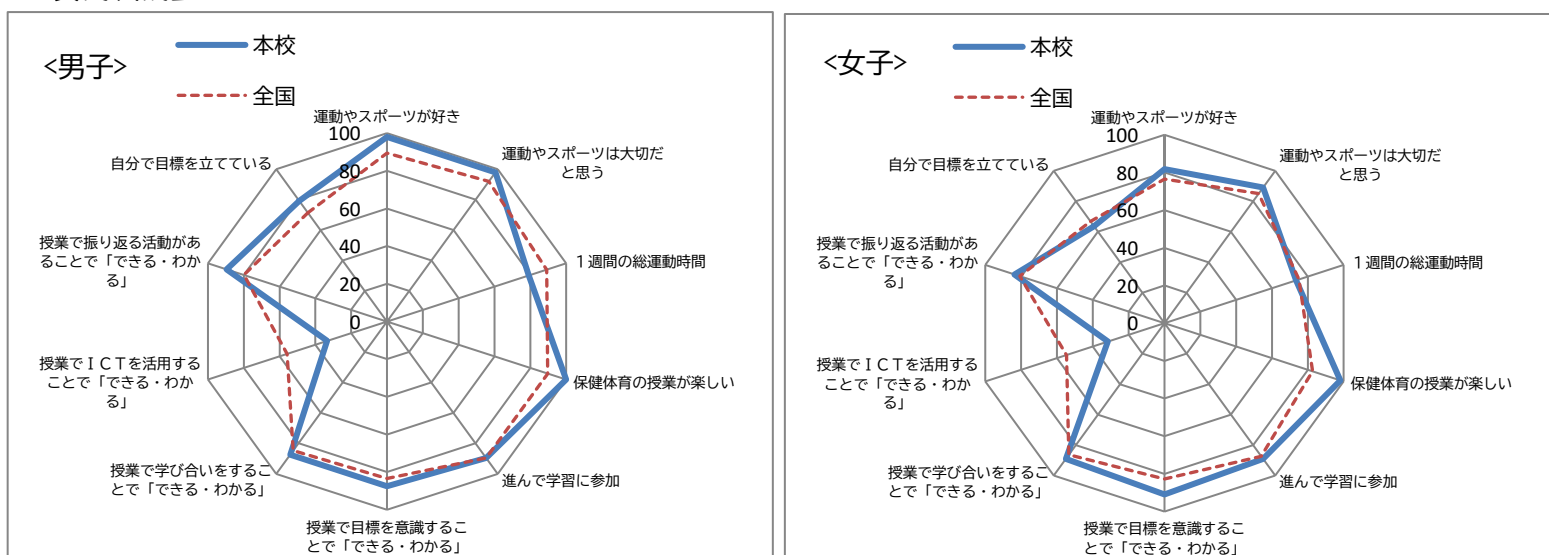
本校全国平均以上の種目	○	○	○	○	△	○	○	○	○	○
-------------	---	---	---	---	---	---	---	---	---	---

<女子>

本年度の結果	握力	上体起こし	長座体前屈	反復横とび	持久走	20mシャトルラン	50m走	立ち幅とび	ソフトボール投げ	体力合計点
全国	23.15	21.62	46.27	45.65	306.26	50.70	8.95	166.34	12.43	47.22
本市	23.64	22.08	47.52	46.35	320.97	51.41	8.86	170.70	12.13	48.65
本校全国平均以上の種目	○	○	○	○	△					

4. 運動習慣や生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要

質問紙調査レーダーチャート



質問紙調査の結果分析

質問紙調査より、「保健体育の授業が楽しい」の値が男女ともに突出して高く、「運動やスポーツが好き」「大切だと思う」の値も全国平均を上回っている。一方で、「学校の体育の授業以外で一週間に60分以上運動やスポーツを行っている（一週間の総運動時間）」の値は、全国平均よりも低い。このことから、保健体育の授業や運動・スポーツに対する肯定的な意識はあるものの、それが日常の運動習慣の定着につながっていないことが分かった。また、保健体育の授業内におけるICTの効果的な活用についても課題である。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科(授業)に関する取組(全校で・学年で・学級で)

学期ごとに学校独自のアンケートを行い、これまで同様、課題や生徒に身に付けさせるべき力を明確にするとともに、運動を「する」だけでなく、「見る・知る・支える」の視点を取り入れながら授業を行う。また、ICT機器を活用して、自他の動きを確認したり、互いに教え合ったりしながら、より良い動きや、体の動かし方などについて確認する場面を授業の要所に取り入れ、「できる」「わかる」生徒を増やしていく。それにより、できる喜びや達成感を多く味わわせ、日常生活における運動習慣の定着につなげるようにする。

② 運動習慣等に関する取組(1校1取組)

学校独自で、運動と関わる機会を授業外で増やしていく。具体的には、瞬発力や走力、柔軟性等の向上を目指し、朝の時間を活用して、運動教室を実施する。運動教室では、ストレッチや筋力トレーニングなどを行う。これまでも行ってきた体育の授業の最初の5分間の準備体操と併せ、生徒が能動的に運動と関わるできるよう、実生活につながる運動に取り組ませるようにする。